



平成4年も瞬く間に過ぎていき、あっという間に最後の12月になりました。

世間では新型コロナウイルス感染症のり患者が増加傾向で8波に入り、インフルエンザの流行も懸念され心配な日々が続いています。大人にとっては、なにかと気忙しい時期ですが、子どもたちには楽しいことがたくさん待っているこの季節。体調管理に気を配りながら、寒さや感染症に負けず、元気一杯に過ごせるよう今月も頑張っていきたいと思います。

行事予定

- 9日(金) 身体計測
- 15日(木) 健康診断
- 23日(金) クリスマス会
- 24日(土) お弁当日

お弁当日は

24日(土)です。

食べきれぬ量のお弁当と、食具を持たせてください。飲み物とおやつは園で準備いたします。



年末年始休みは 令和4年12月29日(木)から令和5年1月3日(火)の6日間です。

休み前に、ロッカーの中に置いている服やおむつ、帽子、布団セットを一度ご自宅へ持って帰っていただきます。ご理解とご協力をお願い致します。

子どもは「におい」に敏感です！！

最近は柔軟剤の種類が豊富ですね。

匂いを気にしている方は、多めに入れることもあるかと思います。

そこで気を付けていただきたいのが、子どもが使用する物に対する配慮です。

匂いに敏感な子は、「いい匂い」と感じるのではなく、それが脳への刺激となり落ち着かなくなる場合もあります。

また、匂いへの慣れにも気を付けていただければと思います。同じ香水をつけていると、本人はその匂いに慣れてしまい、匂いがしないと感じて過度につけることがあるそうです。柔軟剤でも同じことが言えます。同じものを使い続けることによって、使用量が増え、匂いがきつくなっている場合があります。

子どもたちは、様々なことに敏感に反応します。周りの大人が気を付けてあげられることはたくさんあります。

まずは、柔軟剤は適度に、子どもが使用する物は匂いの弱いものを使用する等配慮をお願いいたします。



子育てと「早期教育」

キッドワールド総合園長 牧野 桂一

例年11月を過ぎて12月になってくると、幼児を廻る子育て議論の中で、「3歳からでは遅すぎる」というような言葉が取り上げられるようになってきます。そこでは、「早期教育」ということが大きな関心事になっていて、就学を前にした保護者の皆さんからも、幼児期における「早期教育」についてどのように受け止め、どのように考えていくべきかという質問を受けることが多くなってきました。



特に、将棋の藤井聡太さんの次々に展開する最年少記録やオリンピックやパラリンピックをはじめとしたスポーツでのアスリートの活躍の低年齢化、そしてピアニストの辻井伸行さんの活躍など、天才的な人々の早期からの活躍が目を引く中で、幼児期の子どものスポーツクラブや将棋教室、学習塾、習い事教室などが爆発的に増えているといわれています。



そのことは、保育園、こども園、幼稚園の保育の内容についてもかなり影響が広がっていて、ここでは幼児の早期教育、つまり小学校の教育内容の先取りや画一的な一斉指導という教育方法が、保・幼・小の連携という名のもとで、幼児教育の現場にじわじわと広がっていて、それが家庭での「子育て」にも影響を与えているというのです。

しかし、このような天才的な活躍で話題に上る人々の成長の姿を少し丁寧にしてみると「親がさせたいことを親の一方的な意向で始める」のではなく、どこまでもそれぞれの子どもの興味・関心のあることを子どもの自主性・自発性・主体性に基づいてのびのびと取り組んで、才能を開花しているのが、実態のようです。一見、「早期教育」のように見えるこのような人たちも決して「大人が引いたレールの上を強制的に走らせる」というような子育てをやっていたのではないということなのです。

藤井聡太さんの母親の話では、「自分は将棋はできないし、聡太さんのあるがのままを肯定的に捉えて育ててきた」といっていて、親が意図して強制的に「将棋」のために何かを「早期教育」するというようなことをしていたのではないということが伝えられています。偏った「早期教育」を主張する人たちが、そのような事実をきちんと受け止めないで、「早くから取り組むこと」それも「小学校での学習の先取り」というようなことが、天才的な能力を獲得することにつながるというように考えているところに問題があるように思います。

私たちがこのような間違いの無い子どもの育ちの事実を学び、子どもの発達を無視したような「大人の願う課題を押しつける子育て」は、「子どもが現在を最もよく生き、幸せに学ぶ」ことには繋がらず、子どもたちの本来の才能を伸ばすことにもならないことを知ることがとても大切なことではないかと思えます。



このようなことを踏まえて、「子育て」を考えていくとき、私たちが配慮をする視点として「子ども自身が楽しんでいるかどうかを優先する」ということがあります。早期教育であってもそれは、あくまで子ども本人が成長するために行うものであり、親の自己満足とならないように気をつけなければなりません。就学ということを考える場合も、親からの押しつけとならないように注意することが必要です。もし子どもが楽しんでいない場合には、そこで行われていることがストレスとなっている可能性もあります。子どもによっては、楽しくない意思を自分から言い出せない場合もあるため、周りの大人が聞いてあげることも大切です。



もう一つの視点として「子どもの自主性や自発性、主体性を抑圧しない」ということがあります。自主性や自発性を尊重すると、子どもはさまざまな物事に対して積極的に取り組むようになります。逆に、親が子どもの自主性や自発性を抑圧してしまうと、子どもはどんどん受け身となってしまい、やる気をなくしてしまいます。子どもの活動をより良い教育につなげるためにも、子どもが自主的・自発的・主体的に学ぼうとする姿勢を周りの大人たちが伸ばしてあげることが大切なのです。



日本では、子どもたちの保育や教育のあり方を示す方針が保育指針や教育要領として示されています。そこにも、子どもたちの発達の筋道を大切に、「子どもの最善の利益に配慮した」保育のあり方として、「一人一人の子どもが現在を最もよく生きる」ことができる保育・教育・「子育て」が提示されています。それを大切にすることが「早期教育」ではなく、適切な「子育て、保育・教育」になるということ私たちに教えてくれているのです。

